京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年
本紙定價 一枚金二錢▲一ケ月前金三十錢▲三ケ月前金九十錢▲六ケ月前金一圓八十錢▲郵税一ケ月十五錢
每月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久辨一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 振替口座京城四五六番 電話二一一番
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

通俗藝術の將來（下）

鵬聲

△要して、形式の單純は必ずしも趣味の低級を豫想するものでない以上、吾人は決して此種藝術の將來に就いて悲觀するを要せぬ、社會組織の複雜、生存競爭の劇甚は、必に複雜ある藝術品若くは娛樂品を享樂する時間と余裕とを與へぬは實事である、而も其形式にして單純ならんか、其の内容如何に高尚複雜なりとしても喜んで之れを歡迎し、又た之れを享樂するの傾向を來して居る、生存の競爭は人智を複雜鋭敏ならしめ、智識の複雜鋭敏は即ち高尚複雜なる内容美を歡迎する可能性を有して居ると稱するが寧ろ妥當であるのである、通俗藝術品の人世に缺くべからざるの理由既に斯の如く、又た其の變化の傾向亦上述の如くであるとしたならば、此種通俗藝術界の開拓を志すべき人々の採るべき方針は偏に形式單調にして趣味複雜なれと云ふことに心掛くべきで、形式單純ならんか比較的複雜に失する趣味も敢て歡迎を受くることを難しとせざることは昨今瑞らぬ題」即ち「歐洋振」杯稱するもの〻現はれたに見ても明かであるが然し之れに反して其の形式にして單純を缺かんか、其の趣味の内容とするところが如何に單純な神韻のものと雖も棄て顧みられざるに至るであらう。

●食客論（上）

横行癡人

支那時事問題の喧ましい今日此頃、食客論とは吞氣の亞り、然し維新の際から現今の時代の人を探索したら食客ならぬ人や幾人かある。

食客でも者は青雲に乘せんとする者も時勢が早い爲めに漸し浮世を避けて倚過して居るもの、とばかりは定まらないけれども、昔しは重きを置かれた者さへあつた、僕は告白するが、現に朝鮮の京城で食客をして居る、東京に居た時も食客であつた、まだ志を得ないで不遇である、思ふに僕は食客として生れた奴であるらしい。

敢へて食客先生を氣取るではないが德川時代には武士の食客が多かつた、彼等の食客は……三杯目にはそつと出し……的の待遇に泣いたのではなかつた、現今の如く坐敷を掃除し或は庭を清むるやうな、玄關番の身の上とは違つて居た、横の物さへ縦に爲なかつたもので、朝は遲く起きて夜は早く寐ぬるも、主人の方からは苦情は出なかつたものらしい然し食客には禮があつた其は御飯の時に一杯目は一箸の食を喰ひ、直に二杯目を添へて貰ひ、二杯目も前の通り食し終らぬ椀をば給仕に出すのである、漸く三杯目をば悉皆自己の胃腑に押入れる事が出來たそうである、故に家事を助ける事はせないで毎日寐て暮らして居たのであつた。

食客先生は醉生夢死で消光する、さりながら一旦緩急ある場合には主人の爲めに必ず命を一毛の輕きに比して小さくは一家の爲めに大きくは國家の爲めに身心を捨てかへり見ないのである支那の書には食客三千人……と云ふ字がある、食客を置いた主人の心の中の雄々しい事は、到底自分等の考へには能はざるものである、今日政黨熱の盛らいた時勢には、食客を三千人も置く譯理はない、然し自由や改進の兩派が盛んな時代には、首領株の家には食客先生が滿ち〳〵て居た。

外事一束

▲在英● 米國富豪ジュウ氏二三の同志と謀り清國革黨を援助し其報酬として
▲商業● 上の利益即將來清國に於ける鋼鐵の需要を獨斷し巨利を博んと期す
▲北米● の清國學生等大統領に清國事變に關し干渉的政策を採ざる事を嘆願
▲野黨● 首領ボナアロウ氏下院に盛大なる歡迎を受け歡聲全院を震動せりと
▲伯林● 財會黨員會議を開き沈着なる態度を以て殖民戰反對決議を討議す
▲英國● 撒相の演説豫期に反し獨人に惡感情を與へず一部の英人間有異樣感
▲露紙● 日露秘密條約の結果露が近々滿洲北部を占領すべしとの流説を消
▲又た● 巴爾幹問題に關し提案無しダーダ子ルス問題談判開始は尙早と云ふ
▲佛國● 西班牙がタンヂールに軍艦を派遣せしに對し摩洛哥に軍艦を派す
▲國務● 卿ノック氏米國の對清政策は飽く迄も嚴正中立にありと言明せりと
▲葡政● に最後の通牒を發すとの事實は英國會急進黨議員等をして今更乍ら
▲自國● が波斯に於ける地位及義務の範圍に關して疑惧の念を抱く模樣なり

○新刊紹介

△道の友（二百四十號） 天理教の機關新聞にして社説に「病の元は心から」論説に佐藤朝鮮布教管理者の「韓國的布教論」あり天理教信者ならずと雖も同教の教理を窺はんとする者には好參考なるべし（一冊十錢奈良縣山邊郡丹波市町道友社）

△講談倶樂部（第一號） 講談が何人にも理解し易しといふ點より世間に歡迎さるゝ今日其取材の撰擇講談振の改良を計り益々斯界の發達を謀すべきは亦今日の急務なり本誌は此を目的として產れしものか伊藤痴遊の『寛政の名宰相』松林伯知の『新田義貞公の兜』あり安部磯雄氏の『演説としての講談』高島平三郎氏『男で御座る』等講談改良的の讀物あり此他家庭の好娛樂なるを失はざる記事多し（一冊十八錢東京本郷區駒込坂下町講談社）

△株世界（百一卷十號） 本誌の重要記事『清國動亂と紡績界の前途』『各大銀行の實質如何』『紡績の將來如何』『山本殿相出世譚』等なり例により其他趣味湧くが記事を滿載せり（大阪市今橋二丁目北浜株式店北友會一冊十五錢）

梁川庄八（やながはしやうはち）

第三十八回　小金井蘆洲演

庄「余の儀ではない念の爲に證書一本頂戴致度い、其文面は、今般飯綱權現祭禮相撲の際、和泉村百姓孝太郎に對して理不盡の殺を致し候段、拙者役目の落目に相違無之候、就ては向後右孝太郎に對して、如何なる儀合と雖も遺恨ケ間敷振舞決して致し申間敷候、後日の爲云々といふ證書一本を下さるや」代官も驚いた詫證文を出せと云のだから暫く考へたが、出さないと云へば斯う云ふ人だから、何を云出すか知れない、據なく 甚「畏りました御請求の次第御尤でござる」と遊々筆を取て認め 甚「名宛の義は只梁川庄八殿で宜しうござるか」 庄「イヤ肩へ奥州仙台破牢の浪士とお書加へ下さい」代官も牢破りに詫證を出すと云のも、馬鹿〳〵しいと思たけれ共仕方がない、云通り書いて出した 庄「アー是にて宜敷い就てモウ一つ其許に御願がござる」 甚「まだ御座いますか、何事で」 庄「拙者は行方定めぬ旅の空に漂ふ天下無祿の浪人、貴殿は恩見家の重役、身分には相違はあれど等しく武士ぢや、四海は兄弟武士は相見互と申する事もござれば、某に金子五十兩御惠み下さりたい、拜借を致したいとは申さん……御惠み下さい……、併し其許に於て下し置かれぬと云ならば、是から頂戴致すべき道理を申述べませうか、事論判に渉つては其許を理屈詰にして金子を貰ふやうな譯になつては面白くない、夫よりか浪人者に金を惠んで遣したと云ふ方が結句、名儀が宜しかろうと存ずるから、御無心致すのだ下さらんか」言葉に妙に意味を含んで云から、是を拒めば又何を云出すか知れないと思つたから 甚「宜しうござる仰せに從ひまして五十金只今差上ますが、また此上に何か申分が御座るか、念のため伺ひ置とうござる」 庄「證書を頂き金子をも貰ひ申て此上何の申分がござろう、早く頂戴致したい」 甚「畏りました」とは云ふが持合せがない、據なく大庄屋傳兵衛に陣屋へ立戻れば返濟致すから一時立換へて置てくれ、と頼んで金子を借り庄八の前へ差出すのを受取つて 庄「是にて足下に何も申分はござらん」と土俵の上から見物一同を見廻し 庄「コレ見物一同に一寸申聞ける、人は千歳一失なきにあらずで、今日代官森本甚太夫殿が余り勝見山孝太郎が素人には似合はぬ、腕力で有た爲に相撲に熱して何か宿意でも差挾んで居るやうに一同に思はしめる、行爲をせられたが是りや全く、一時の好奇心より湧た事で、他に事情の有ての事ぢやない、就て過ちと悟つて以後御改めになるとの事、此事に付て其方共代官森本殿に無禮なぞが有てはならんぞ、嗜好の爲に賢者も一失をなされたのであるから、飽まで尊敬を拂はなければなりませんぞ」と說き諭して土俵を下り、小屋を立出て飯綱權現へ參詣を致し、鳥居の處迄來ると見物はぞろ〳〵、銘々種々な批評をしながら退散をして行く、鳥居際の處から飛出して來たのが山城屋伊助だ 伊「旦那樣ゑらい事をなさいましたな」 庄「オ、山城屋か……手前は見へなかつたが何處へ行く居たのだ」 伊「へエ私は御止申、のも、れ聽なさらず、れ出になりましたから、若しもの事があつたら何う致そうと存じまして、鐵敷から降りて隠れて容子を見て居る内に、貴方樣の御技倆には驚きましたな、けれ共御領主樣御抱力士を投殺して了ひなすつて、是は只では濟まないと思ひましたら、反對に代官から詫證文を取つて剩さへ金子まで取たとは、大層な腕でげすな……私は全然溜飲が下つて了ひました、れ代官の膏を絞つて了つたので陣屋へ歸ると、ありやあ代官の干物になりますせへ」 庄「コレ〳〵伊助余計なへらず口を叩くな……」 伊「へエ、れ歸りになりますので」 庄「イヤ其方和泉村の孝太郎の家を存じて居るか」 伊「知つて居ります」 庄「其處へ案内を致せ」 伊「畏りました」と山城屋が先へ立て和泉村を差して進入て來ると、村の入口の松並木の陰から、二三十人の村人が一塊になつて、梁川の前へ小膝を屈めてズーと出た 村「ヒエー旦那樣今日は誠に何うも有難う存じまして、れ陰樣を持ちまして孝太郎が助かりまして」 庄「手前達は一体何んだ」



東京電報

▲公使館の準備

北京十四日 天草丸にて天津より歸來せし客の談によれば北京の危機日に切迫し來れるを以て日本公使館に於ては萬一の場合に在留邦人を保護收容すべく食糧一切を購入し目下本邦婦人は軍隊に收容し又男子の貴重所持品も保管をなしをり一朝戰亂の巷と化せし場合に應ず可く準備整ひ居れり

▲增援軍は長春隊

十五日其筋に達せし公報によれば革命軍に對する妥協案は大体に於て穩健なるものなりしに革軍之れを拒絕せしため到底媾和の見込なく袁世凱は大兵を南下せしめ革軍大討伐の決心をなし又軍諮府も大討伐論を主張し居れり討伐增援隊は多分長春軍隊也と

▲米國の派兵準備

米國政府は比利賓に駐屯する軍隊に對し二十四時間内に三千五百の出兵準備を命じたり

北京特電

▲革命黨の袁暗殺計劃

北京に於ける革命黨は袁世凱を暗殺せんと計畫中なり

▲袁時局策に窮す

袁世凱は革命軍との和議成立の見込なきより北京外交團と協議をなしたる上討伐の策を立てんと傳へらる

▲官軍の大激戰

鎮江南京間の鐵道線路に於て十七日官革兩軍大激戰あり勝敗容易に決せず

▲陸戰隊上陸

芝罘居留日本民保護の爲め鈴谷艦より四十三名より成る陸戰隊上陸す

▲袁日本公使と會見

伊集院公使は十七日袁世凱と會見し何事をか協議せり

▲革軍安慶包圍

安慶巡撫衙門は包圍攻擊を受け市内は無警察の狀態に陷り掠奪盛なり邦人無事

上海電報

▲南京總攻擊迫る

新軍の主力は目下鎮江にあり兵員凡そ二旅團にして其先發隊は既に龍潭附近迄進軍したるも兵器糧食の用意なきため南京總攻擊は尚數日を要する見込なり而して南京攻擊戰は朝陽門より大平門に至る地點より開始せらるゝの形勢なり

▲革軍一派の密議

革軍の將軍たる黎元洪の使者は廷芳及び在上海の革命黨員と會見すべく上海に到着せり側聞く所によれば孫逸仙も遠からず來着の筈なりと

▲種族的闘爭の害

十二日南京城内にて滿人の殺戮せられし者十數名に及びたり八日以來滿人の殺害に遭ひし者二百名に上れり

▲各國提督集會

英國艦隊提督ウヰンゾン中將は十七日上海に來れり尚各國の派遣艦隊司令官も續々發地に來る筈にて當地は政治上注目すべき地點となれるものゝ如し

▲大通電信局占領

南京九江の中間に當る大通は陷落し革命軍は電信局を占領せり

▲英國と革命軍

英國は革命軍を交戰團體と承認せりと當地の清國人は信じ居れり

▲革軍と鐵道中立

數千名の革命軍隊は今や將に南京に向はんとし上海停車場に集合せり英國官憲は一旦同鐵道を中立とすべしと宣言したるに今や革命軍に許すに同鐵道にて出發し得べきを以てせり

天津特電

▲張紹曹の訪問

第二十鎮統制官張紹曹は本日總督諮議局議長等を訪問せり

▲投降軍艦隻數

革命軍は一擧に揚子江、江内を拖してより薩提督指揮下の清國軍艦は前後して白旗を揭げ本日迄の通報に依る投降艦を合すれば實に二十三隻水雷艇三隻なり

▲投降艦の南京行

軍艦東瀛州南琛の兩艦は漢軍にて當地を發したる革命軍を迎へんか爲め兵士彈藥を積込み南京に赴けり

奉天特電

▲形勢近く激變せん

奉天の國民保安會は目下內訌起り紛亂を極めつゝある一方には革軍の主將黎元洪一子來り形勢は近く激變せんとするの模樣あり

▲長春の自衛團組織

長春にては商務會、保安會の外に自衛的保安會組織せられ各商店にて經費を負擔し城内商業の保護と秩序の維持に努むることゝなり長春府は道臺の認可を得其主旨を贊せり

雜報

●總督の歸任期

寺内總督は二十三四日頃東京に着し約三週間餘滯在來月十五六日頃歸任すべしと

●藤田組の鑛山調査

藤田組にては既報江原道に於ける五個所及び忠清北道に於ける一個所の鑛山の外に更に他の鑛山を手に入れんとの計畫あり昨今技師を派して鑛區の採探に從事しつゝあるが其の方面は多分南鮮なるべしと

●清國動亂觀

……代議士松本君平氏談……

清國目下の情勢はまるで蜂の巣を突ついたやうだ、各省の獨立宣言と來ては溜つたものではない、ところで清國の主權は今のところ誰の手に委せらるゝか不明だ、天子蒙塵說も却々旺んだが何處に蒙塵するかは勿論外間の關するところではない、併し何の蒙塵するとあらば日本の爲めよりいへば奉天蒙塵こそ願はしけれだ、熱河といふ說もあるが熱河では或は蒙古を經て露西亞の力を借ることゝなりはしまいか、而して現今のところでは大分革命軍の勢力が盛んだが革命軍が今後滿洲政府を轉覆して天下の大權を掌握するとして果して亂後の天下を平定せしむることが出來るや否やは疑問だ、而已ならず滿洲政府が假りに倒るとも蒙古、滿洲邊に或る範圍の帝國を建て之れを維持して行くやうになりはしまいか、ところで日本政府は今後第三國の地位を確守し清國の形勢をヨクヽヽ洞察し而して臨機の策を施し得るの準備をなし置く事が肝要である、北京駐剳の日本兵は從來は少なかつたが今回增派することとなり又一令の下に滿州より約五千の兵をやる事となつて居る、予は之より北京に赴き約三ヶ月滯在の豫定だが總亂の如何に依つては長引くかも知れぬ云々

●京都織物と朝鮮需要

去十五日當地出發京都日之出新聞主催朝鮮視察團員中京都西陣織物業組合長中澤利八氏の語る所によれば半島と京都產織物に付ては貿易年額十萬圓と云ふ者あり或は二百萬に達すとも聞きたるが區々の說にして一定の統計なき爲め要領を得ず自分の所感としては日人向きとしては僅かに全土十五萬の內地人數に付取引額は無論僅少なるべく鮮人向きとしては見受くる無地物のみを使用する傾向永き常習の如くなれば木棉物は適當ならんも絹物は生產費の比較上到底見込少なかるべく又需用も一部兩班紳商に限られたる趣なれば取引も多額に上る傾向を發見せず將來鮮人の嗜好によりては或は綿交りの粗純なる織物は引合あるやも計り難し豫定行動の時間に制限ある爲め充分の調査に暇なく工業傳習所等に付種々說明を求めたきも其の暇を得ず僅に一應取調べたき考なりしも同業者四名一行中にあるも自分初め一同前述の如く多忙なる爲め纏りたる意見を述ぶる能はざるは遺憾なり因みに清國動亂に付ては製布業者の一二多少の影響を受け居るものもあるべけれど大体に就ては格別の事なし云々

●全道金融組合貸出高

最近の調査に係る朝鮮全道に於ける金融組合の貸出高は百〇五萬五千二百三十七圓なるが其の多くは回收時期に際せるを以て大に減少すべく收穫を終りて更に貸出す豫定なりと而して現在金融組合の數は總計百六十個所にて一郡平均二個所の割合にて尤も右の中十八個所は最近の開始に係り四個所は創立準備中なるが來年度に於ては更に幾個所をか增設すべしといふ

●重要事務報告

十八日山縣政務總監より寺内總督不在中の重要政務報告を東京總督府出張所に宛て發送せり

●全國商議聯合會通牒

既報東京に於て開催さるゝ全國商業會議所聯合會は十二月五日と決定其の旨聯合會長中野武營氏より當地商業會議所に通牒ありたる由

●商議役員會議事

同役員會の議題は既報の通りなるが土地證明遲延に就ては之れが迅速を期する爲に近日京畿道長官に事情具申する事とし會頭問題に就ては種々協議したるが所謂京城に於ける元老側外の候補者としては進辰馬氏、釘本藤次郎氏、及深水清氏等の呼聲高かりしも結局決定せず或は此際二名の補欽議員の選擧をなし其內より推薦せば如何との說ありしも差し當り適當の人物を物色し難く結局取纏る處なく來る二十日の總會にて何等決定することゝなりて散會せり

●土地證明遲延問題

……檜垣京畿道長官の辯明……

當京城府廳の土地家屋所有權及質賃等の證明緩慢は今や世上の問題となり當地商業會議所の如きも監督官廳たる京畿道廳に對し證明掛員の增加を請はんとする迄に立至れるが之に付檜垣京畿道長官は語つて曰く道當局者に於ても早く既に之れを認め其の原因を調査せしに舊韓國時代に於ける土地證明なるものは日鮮技手十三名を以て之れに當り居りし爲總督政治に至り其の係員は全部雇員を以て之れに充つることゝなり其係員總數も却つて些く且つ併合以來接踵內地人の渡鮮したると朝鮮人等亦多少資財に餘裕を生ずるに至りたる結果土地の賣買典當等は頻繁に行はれ其の證明申請件數の如き本年は昨四十三年に比し實に驚くべき增加を來し九月迄の件數を比較するに本年は昨年に比し五千餘の增加を示し居れり右の次第なれば府廳に證明遲延のことあるも亦止むを得ざることにて決して事務を等閑視しつゝあるにあらず然りとて該證明の如き直接人民の利害に關係を有すること極めて大なるものなれば道廳にても過般來出來得る限り府廳の土地證明事務に援助を與へ只管其の事務の進捗を促しつゝあり從來の遲緩件數の如き。長くも本月末日迄には終了する運びに立到り居ることは責任を以て明言するを得云々

●商議問題と總會

商業會議所にては來る二十日午後六時より議員總會を開き會頭問題に就て協議すべしと云ふ

●道路擴張期成會活動

去月民團より其筋に對し道路擴張補助申請をなしたる其後更に捗々しからざる爲本町道路擴張期成會の委員は近日連袂總督府に出頭し願意の貫徹に努むべしといふ

●取引所運動歩を進む

取引所設置運動に就ては將來着々其步を進め去る十一日競賣會社に於て發起人の相談會を開き設立理由書、營業目論見書、認可申請書に就て協議し準備委員の案を全部可決して愈々本日より發起人の調印取纏めにかゝる事となりしが八十余名の調印を得るに一週間位要すべく右了るや直に願書を提出し猶當局に面會し其必要にして時宜に適當なる所以を縷々陳情する筈なりと

●防腐劑使用禁府令と不正酒

既記の如く去る二日總督府令第百三十三號を以て衛生上有害物及び有害物品取締規則發布されしに就ては清酒の如きも內地に於けると異り朝鮮に於ては防腐劑としてサルチール酸を使用すること能はざることゝなり內地清酒商は清酒移入上尠からざる打擊を蒙りたる譯なるも右に就き當局者は清酒防腐劑としてサルチール酸禁止の件は立案の當時大に議論ありたるものなるも內地に於ても清酒にサルチール酸を混用することは本則に於ては絕對に禁ぜられ只附令に於て或一定量に限り之れを默許さるゝものなれば朝鮮に於ても近く附則等の形式に於て默許さるゝことゝなるべし併し該總督府令の發布は從來の尠少ならざる移入を見つゝある不正酒、即ち多量にサルチール酸を含む清酒の販賣は容赦なく之れを禁止することを得べく又た一面に於ては當局者が直に各清酒商に就き其他の有害不正酒の販賣を禁ずることも自由なれば其の發布は大に時宜に適したるものならんかと唱へをれり

●東拓移民承認數

既報の如く東拓會社にては第二回の移民申込者千六百戶に對し不承認のもの七百餘戶あり確定せるもの四百五十戶にて殘餘の分は資格の調查及び割當地の諾否に就き昨今照會中なるが遲くも來月上旬には全部承認の戶數決定すべしといふ

●東拓の新移民地計畫

東拓會社にては第一回及第二回の移民の移住地を北鮮に及ぼさゞるが將來に於て該方面に移住せしむるの必要あるを以て先般來咸鏡北道に於ける或る一部の土地を買入れつゝありといふ

●京畿道內の漁業

京畿道に於ける漁業は仁川を中心として八尾島德積島江華島沖及び牙山灣等を根據地として業に從ひつゝあるが目下京畿道管內に移住せる內地人漁業者は四十七戶にして熊本愛媛福岡岡山大分鹿兒島長崎山口佐賀等よりの通漁者は六七八の三月中道內各地に集會し鯛鱸石首魚鰕鯖等の漁獲に從事するを常とし仁川港に來集せし漁船のみにても六百艘に上り漁夫約三千人を算し延繩及鯨網漁の如き一隻平均約二千五百圓餘の漁獲をなせり之等從業者は冬期は何れも歸國或は釜山方面に轉ずるが常なり

ツベルクリン注射に就て（一）

總督府醫院森安富永兩氏の談

結核病は貴賤上下の別なくあらゆる階級に蔓延して其暴力を逞ふしつゝあり人類の大敵として既に結核豫防會の組織を見るに至り大に防壓に努めつゝあるも未だ以て完全の域に達せず各種の病院に通院する病者の大數を觀察せば少なくも其の五分の一は結核性疾患なりと云ふを聞かば豈戰慄せざるを得んや近來結核菌新治療法としてローゼンバッハ氏『ツベルクリン』コッホ氏の最新『ツベルクリン』等結核患者の福音を傳ふるものあり近くは六百六號の前例もあり徒らに流行を逐ふて悔を殘すが如きは識者のとらざる所なるを以て記者は總督府醫院に就て森安博士並に富永學士の談話を聽き得たれば大要左に之を揭げん

ローベルトコッホ氏は結核菌の發見者にして亦同時に『ツベルクリン』の發見者なり夙に結核の特効藥を發明して人生を救はんと專心之れが研究に從事せられたるは世人の普く知る處なり最も初めに創製せられたる舊『ツベルクリン』は肉汁培養基に結核菌が殖へ其濾液を蒸發して濃厚となせるもの之れなり即ち此液の中には結核菌の新陳代謝物を混じ居るを以て之れを人体に注射し其体內に此毒素物に抵抗し得る（抗毒素と稱す）ものを發生せしめて以し結核の治療を計らんと企てたり故に多量に注射すれば多量の抗毒素を生ずるは理に於て明かにして已に存在せる結核を治癒せしめんには可及的多量を注射せざるべからず然れども今此液を患者に注射するときは比較的少量にても發熱、頭痛全身倦怠四肢の疼痛等副作用を惹起するのみならず時には却て結核病竈の增惡擴大することあり結核患者は概して神經過敏になり居るを以て可成少量を注射し漸次に大量に至るを可とす從て長き日時を要すること勿論なり

猶他の諸點より一層確實なるものを製せんとて案出したるものはコッホ氏新ツベルクリンにして這は結核菌が体內に存在するは毒物の內比較的水に溶解し易き部分を去り溶解し難き部分にて作れる乳劑なり即ち菌体に存する結核毒を注射して此れに對する抵抗力の增加を企てたるものなり次て單純なる結核菌乳劑及び數種の『ツベルクリン』液創製せられたりと雖何れも充分なる目的を達する能はざりしも或範圍に限り使用せられたるも一般に實用せられず殆んど顧るものなき狀態にて結核者は對症療法の外は唯クレオソート劑を有するのみ富者は溫暖なる地に轉地療養を試み其快復を計り貧者は坐して死期を待つが如き悲境を呈せるなり

●愛婦及赤十字社員

朝鮮全道に於ける最近調查の愛國婦人會々員は八千二百二十六人にして內日人七万五百九十一人鮮人六百三十五人なるが京城のみにては日鮮人を合せ一千六百九十五人なりといふ又赤十字社々員は日人一萬一千〇六十八人鮮人二千六百八十九人なりと

●華商總會例會

當地在留清國人華商總會は十八日午後七時より同會議所に會集時局に鑑み清鮮商況及在留民の人心に付協議會を開くべく十七日各議員に通知を發したり

●甘藷栽培の奬勵

朝鮮の例として每年春季に至れば多數の窮民道廳等に救恤を願ひ出で其の處分に煩はしきものあるより當道廳にては昨春來之れが救濟策として產業を奬勵すると共に取り敢ず甘藷苗一千貫目を管內各窮民に供給し其の栽培を勵行せしが其の結果頗る良好なりしより明春には管內各面每に必ず之が栽培を行はしむる筈にて目下各面長等に對し熱心勸誘中なりと

●松本代議士の入京

靜岡縣選出代議士松本君平氏は清國動亂視察の途次十七日入京十八日朝北京に向つて出發

●米國領事小松長官訪問

外國人墓地改良の件に付請願の爲め獨、米各領事は十八日前十一時小松長官を訪問せり

●支那領事の仁川行

當地駐在清國總領事馬廷亮氏は十八日午前八時同國館員名と共に仁川に赴きたるが右は仁川に於ける清國居留民の情況視察の爲めにして同地に三日間滯在すべしと

●小原局長の引籠り

小原地方局長は微恙のため十七日より自宅に引籠り療養中なり

●池田通信局長官の上京

池田通信局長官は今回上京を命ぜられたるが二三日中に出發すべしと云ふ

●經理課長事務兼掌

總督府會計課の入江經理課長當分上京に付不在中は工藤營繕課長兼掌すべしと云ふ

●鐵道局平壤工場長

朝鮮鐵道局技師山崎忠直氏は平壤工場長を命ぜらる

公人私人

▲水野悅造（陸軍一等軍醫）十七日出發廣島へ
▲中村光吉（朝鮮銀行平壤支店長）同投宿不知火
▲宮本吉太郎（兵庫縣外海漁業團長）同旭旅館
▲小鹿島饒（農工銀行開城支店支配人）同岡山本

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
十一月十八日	一三六、五六、三〇〇	四三二

▲治外法權▼

九州の大演習へ陪觀に行つた寺內總督は、コッチへ歸つて來ずに、東京へ行つて仕舞つた、茲に於てか綠泉亭は霜枯れ、其反對に麻布御殿は賑ふ、伯爵夫人の得意や思ふべしだ▲總督の東京行と云ば同人に隨行して行つた明石警務總長、之も東京へ行つたとの事だ、聞けば彼が本月末歸任するときには明石令夫人を連れて來るとの事だが、ソウなると名譽ある明石の獨身生活に鬼が附く譯だ▲過日の本紙社說にもあつたが、我愛國婦人會は支那から來る避難者の爲に慰問其他大に活動をすべしだ、敢て鮮人と云はず、漢人と云はず將た洋人と云はず、一視同仁博愛を以て迎ふべしだ▲市原鮮銀總裁の退任說が實現するかドーカは、記者の知らぬところだが、ヨシ夫れが實現しても誰れも驚くまいとは某銀行家の言だ▲ナニ氣早の連中は市原にして去らば誰れが後釜に据るダローかとの詮議立を始めたソウだが、マア待ち玉へ待ち玉へ、ソコは山本藏相の方寸にあるよ▲十二月一日から釜山行の夜汽車が每晚出ることになつたのは結構の事だ、ドウカ茲二三年間は損して待されの營業方針を續けて貰いたいね▲ブラウンの遺物たる關稅局のデビットソンと云ふ人が退任したソウだが、之れで倉目賀田男施設の効果が明かになつた。



●續五藝妓涙の内情（九）

▽人面獸心の堀内實

此より先き堀内實は歸京後直ちに[illegible]に及び山本孝太郎より本紙記事中止交渉の顛末を聞き取るや否大に怒り兩人に向ひ記事中止の交渉を爲したるは可なれども謝罪狀を差入るゝが如き愚なる手段に出でず何故金錢にて濟まさゞりしかとて鐵拳を山本の面上に加へ他人に對しては我社の一記者が記事中止の報償を求めたりとて某氏の[illegible]者なる堀田某をして其筋にあらぬ報告をなさしめ且つ讒構せらるゝを見るや其報償を斥けたるが爲めなりと言ひ廻り居れりと聞たる十七日午後四時彼れ堀内實は自身本社を訪ひ記者に對して曰く「留守中種々御配慮を煩はしたるに對し疾くに來訪すべき所私事多端にして禮を缺き中譯なし」と口を切り「自分に關する記事中自分先般の歸京を以て抱妓[illegible]等の父母を瞞着して一身保證の委任狀を受取らんが爲めの如く記載せられたるは間違りにて全く自分が相續人として貰ひ受けたる者の實母危篤の電報に接したるが爲めにして決して保證委任狀受取りの爲めに非ざりしも御紙に自分に關する記事掲載せられたりとの電報及び書狀を受取たる爲め萬一を慮り抱妓等の父母より保證委任狀を受取りたる者なり且自分は當地（京城）に於いて事業開始の見込無きに依り名古屋にて料理店さかひ樓の經營者より同樓を引受けれは私京城歸着と同時に妻くに丈なりとも歸郷致さすべき答なりしが何彼と取込みて未だに其運びに至らず、而して所謂妓涙の保護委任狀は」とて示せるものに依れは大略「今般貴殿御歸國に就き何卒自分の娘も同行下されたし」と云ふ意味のものなり、記者は云ふ「本證書は何の必要ありて事新しく作成せしめられたりや」と尋ねたるに堀内の答へは曖昧にして要領を得ず且つ曰く「御紙には自分が奉天に於て退清命令を受けし如く記載せられしは大間違ひにて自分の[illegible]が奉天に於て現に當地引揚前まで料理屋營業したる證明書は斯の通り」なりとて提示したる元より料理屋となし居たりと云ふ證明なれば「決して退清命令を受けし事無しと云ふ證明にはならず」と記者の刎ね付けたるに對し「へエー」と云ひしのみにて「自分も天津奉天等にて料理屋營業を爲し既に相當の資産も出來たれば以後は全然改悛の實を現はすべく料理屋稼業なぞは致不申」と話を外したり記者曰く「良い心掛けだ良い心掛け序に改悛の實を揚けては何うだ」堀内曰く「此通り改悛致して居りますのですが如何にしたら宜しう御座いましようか」記者「れ差圖は致さんが、アノ藝妓共を解放し養女分を親許へ歸したら何うかい」堀内「エ、夫れは其皆相當に嫁入らせます」記者「其所で君が料理屋稼業なぞはせぬと成るど前話た名古屋のさかひ樓とかの營業は誰が爲るのかい」堀内「夫れは其何で御座います……」記者「虚心平氣に今一應考へなさい、眞面目にね」と彼れは漸くして辭し去りたり、此れ彼れと記者との會見對話の要領なり。言々曖昧、句々不眞面目、記者ならずとも彼れに改悛の情なきを推するに難からざるべし

●靜江は人身御供

▽玉家席桀次の妹藝妓

十七日午前一時西旭町高田屋に於て南部署附川巡、尾木野兩刑事の爲めに遊興中を引致せられたる奥村千里なるものが總督府會計局員と號し京城券玉家の桀次及靜江の二拍子を敵妓に豪遊を極め且つ常に金庫の鍵樣の物を弄び金錢は此を一つ捻れは幾何でも出ると豪語せること去る十一日兒耳子の耳に入りたるより内探に從事中奥村は引致せらるゝに至りしものにて桀次拍子は明治町の某請負師の御最負を蒙り毎月五十圓の補助を受け居れるが實母共々住ひ居る旭町四丁目の自宅は家賃一ヶ月二十七圓を出し居れりとぞ夫れは扨置き桀次ロナカ〈〈の浮氣女にて旭町一丁目料理屋壽美家の帳場を勤むる堀田某と云ふ八字髭の當世男を情人に取り表面には妾や線香だけを賣るホントーの藝妓だと云ひ觸らし秘密には大に賣るので流行妓の一人に數へられて居るのなりとが此は去る三日の夜壽美家から口が掛つたので出て見ると三人一座の小酒宴、中の一人は桀次が未だ京城に來ない以前滿州邊を流れ歩行いて居た頃何處かで顔を見[illegible]術中に陷りたるは去[illegible]し（つゞく）

●迂潤な京畿道廳

▽官金千三百圓の紛失
▽犯人は前者の雇員

昨紙「總督府會計局[illegible]事中奥村千里を總[illegible]たるは彼れが自稱[illegible]實彼は京畿道廳會[illegible]務中の者にて東京[illegible]島町生れ奥村千里[illegible]明せしが南部署詰[illegible]が同人を逮捕する[illegible]及捜査の動機を聞[illegible]

[illegible]は名丈けは許して呉れ[illegible]に或る夜の散財中不圖[illegible]ありしをれ千代が巧妙[illegible]持し之を兩刑事に渡し[illegible]しあるより奥村千里と[illegible]月南部署に詐欺取財犯[illegible]る事あるより人相を確[illegible]りしそ其の所在を捜査

[illegible]の間に於て新町遊廓中奥村は早くも斯くと覺りし見へ新[illegible]餘回登樓し相妓高龍町には足を踏み込ますして新項記載の[illegible]す者ある事を探知し如く町藝妓に現を脱かし居たるを逮捕[illegible]なるも遊興者が敵妓さるゝに至りしなり取調の結果日給一[illegible]等にも其本名を明さ聞取りの京畿道廳雇員にて會計出納係[illegible]權仲居石田千代なるを補助し居るを奇貨とし官金千[illegible]かして本名及び官職[illegible]しが最初は單に總督

三百餘圓を盜み出し新町遊廓にて金六百圓殘餘は町藝妓の方に打込みたる事判明せしが茲に怪しきは犯人奥村千里は滿洲大連民政署に於て判任官たりしが素行不良にして免官となり幸運にして同地正金銀行員に雇はれしに行金費消し免職となり諸所を浮浪し昨年十一月當地に流れ來り詐欺取財横領犯にて檢擧され京城地方裁判所に於て懲役六ヶ月に處せられ本年六月十八日に永登浦監獄を出獄せし前科犯人なるに京畿道廳にて會計課雇員に採用したる事及官金千三百餘圓の紛失を本件發覺迄當該官廳にて知らざりしと云ふが監督官の無責任言語の外に絶す

仲居評判記

翡翠樓のれ花

[illegible]事珍らしくもなし稀[illegible]れも聞せて呉れとの[illegible]二番に披露仕るは[illegible]りますれ花さんは本[illegible]されます、山口縣は[illegible]、明治十三年六月生[illegible]と二歳、來年は女の[illegible]の今年からしてセイ[illegible]で御座る、イヤ此れ[illegible]れ入りました、エ、[illegible]骨柄の鑑へ持つて來[illegible]るもので御座るから[illegible]九としか見れません[illegible]さん、ヂャないれ鉄[illegible]、改革された今日の[illegible]の何んのと云ふ區別[illegible]一付け主義の時代に[illegible]の乳に縋つて居た時[illegible]とて隨分も屑を縫[illegible]す、何にしろ翡翠に[illegible]れど斷り申すも變で[illegible]年だと申しますから[illegible]を古い翡翠のれ花さ[illegible]以前は仲居も旦那を[illegible]れ花さんも拓殖會[illegible]三つ泣宿して三つと[illegible]子供三八となつて居[illegible]花さんは自分の氣に[illegible]客をつけ料理なぞ勝[illegible]が先逐になつて盛ん[illegible]たものです、相だ、が[illegible]後の方針から創出され[illegible]れ花さんの本心では[illegible]顧には樓主が變り輕便[illegible]ると同時にれ花さんも[illegible]變りまして優しい町事[illegible]た、他年の功は爭はれ[illegible]妙なもので御座る、エ[illegible]

●奴女郎の仁川落

▽思ふ男と手を取つて

原籍熊本縣宇土郡網津村當時仁川仲町淺岡の板場中田新吉（二四）と原籍愛知縣中島郡稻津村當時仁川敷島遊廓第一樓日權娼妓奴事石黑みつ（二三）とは互に思ひ思はるゝ變情となり年期の滿るを待ち兼ねて去三日奴は借金の八十圓を月賦返濟の契約を爲し目出度泥足を洗ひ京町の宮島方に寄居の身となりしは結構ながら如何にしても返濟の方法立たざるより一層隱德寺ヵ極め込みたが利益と十七日午後五時仁川出帆の群山丸にて二人手に手を取り群山差してポーッポーー

●悪店員續々拘引

本町一丁目桑原專洽兒呉服店員滋賀縣人八木喜三郎（二五）同埼玉縣人金子文樹（二六）は八月三十日より十一月十日迄の間に於て主人の目を晦し反物十四點（代百三十圓餘）を盜み出し賣却若しくは入質して新町大和新地元祿、萬歲亭に於て遊興に費消したる事佐藤長野岸刑事に探知され目下取調中

●ランプの背負逃

中部晨國洞七十九統六戸黃登秀（二八）は十三日午前十時頃本町二丁目綛居自轉車店より瓦斯ランプ十二個を背負ひ通信局迄店員と同行持ち行く途中隙に乘じ逃走し北部署に捕ハ檢事局に送らる

●チョコマン泥坊

中部椒ト洞八統八戸奉快吉（一六）は去る七月以降中部奥洞尹永輪方外十數ヶ所に忍入り金品を窃取し北部署に檢擧され檢事局に送る

●取消

會第四一六九號を以て左の如く申込まれたるに付き取消す要するに奥村千里なるものが會計局の名を詐稱したるものなるべし

新聞記事取消請求の件

貴社發行京城新報第八百二十二號雜報欄内總督府會計局員の御用と題し會計局出納掛奥村千里なる者犯罪の廉にて南部警察署に逮捕せられたる旨の記事掲載相成候處當局には奥村千里なる者曾て在職したること無く迷惑不尠候條此全文を掲げ至急御取消相成度此段請求候也

明治四十四年十一月十八日
朝鮮總督府會計局長 伯爵兒玉秀雄印
京城新報社御中

日曜集會

▲微笑會　十九日午後三時より初音町二丁目臨濟寺に於て[illegible]集例會提唱あり參詣隨意

▲メソヂスト教會（旭町二丁目）　十九日午前九時半日曜學校同十時半より禮拜說教「神の人の祈禱」あり午後七時より傳道說教「エスと青年」ありと

▲京城基督教會（相生町）　十九日午前十時より禮拜說教「活ける靈の神」午後二時より朝鮮基督教會主催にかゝる朝鮮人傳道の爲めの說教會あり渡瀨牧師の「隆興の道何れに在りや」なる說教あり午後七時より宗像鶴四郎氏の傳道說教ある筈なりと

●演藝だより

▲壽座　千里眼三田光一一行の大奇術なるが愈々十九日限り千秋樂

▲歌舞伎座　吉田奈良男一座の浪花節も同じく十九日限り當地打揚げ

▲浪花館　三遊亭若遊三一行の落語手踊なるが毎日替り[illegible]の喜劇なぞあり極めて賑ふに御機嫌を窺ふと

●桃中軒雲柳の乘込　既報の如く桃中軒雲柳は鎭南浦打揚後當地壽座に乘込み開演の事に決定したり初日は來る二十一日にして讀物は「大石妻子別れ」後席が「大石江戸探り」の二席にて一行中の新派講談師花園擧の讀物は「伊藤公爵生立よりハルピン迄の一代記」後席は「明治俠客木曾富五郎」にして入場料も七十錢五十錢三十五錢二十錢にして不足料二錢の外木戸錢なるものはなしと因に雲柳は有力者筋の盡力に依り二代目雲右衛門襲名の都合なりとか



●諸公債諸株券 現物賣買
迅速確實に御取扱可申候
兼業 既製洋服卸小賣 諸官衙御用達
京城本町三丁目
大阪野村銀七代理店
田中友吉商店

(創立明治五年六月)
資本金 百二十五萬圓
積立金 六十万七千圓
貨物運送取扱
危險擔保運送
貨物引換證發行
品代金貨物取扱
税關貨物取扱
內國通運株式會社京城支店 電話長一七九・長七〇八・一二三五
本店 東京市日本橋區佐內町三番地
支店 京城南大門驛前
釜山驛前 釜山出張所 電話三五七
草梁驛前 草梁出張所 電話六九〇・一〇四六
仁川驛前 仁川出張所 電話長二一六
龍山驛前 龍山派出所 電話五〇一
平壤驛前 平壤出張所 電話長二一六

◆用法は作物の名を示し下記へ御照會◆
朝鮮畑作物のためには
室素肥料
智利硝石

廉價 輕便 速効
本肥料販賣店御不明の際は御照會被下度候
◆◆智利硝石普及會東洋本部◆◆
東京市麴町區馬場先六番
電話本局二九八九

◎革命的發賣者は出でたり 時代は斯の如き正確なる品質を要求せり◎
△特製 たびはたびたびたび 仁川名物として好評嘖々たり おろし小うり▽
●右商標の紙甲は國枝甲路所で深く暖かく、晒地は細緻の最上等にして何れもキール裏附で各十文一足に付金廿錢です
但し半文一錢の割合で六文以上十一文迄全部商揃ひ……猶多數御入用の節は直段特に勉強致し升……
又遠方より各文を通して十足以上御注文の際は代金引替小包便を以て送り升……其發送費用全部は當店が負擔仕升から全鮮均一販賣は至極御便利……
▼全鮮均一發賣元‖仁川本町四丁目四ツ角西隣‖小谷嘉吉商店足袋部▽

蛇印 アンチピリン丸
かぜねつ藥
ダンセキ改良劑
呼吸器散
呼吸器丸
藥價 十五錢 廿五錢
東京 大阪 丹平商會 本舖

移轉廣告
今般新築中の家屋愈々落成致候間從來の營業所より三軒目の西に移轉開店仕候に付何卒倍舊御引立の程偏に奉願上候
明治四十四年十一月
大平町二丁目二番地(元營業所より三軒西)
東京きそば 更科支店
電話六九八番

商品目錄
◉活動寫眞器械◎幻燈器械
◎內外フヰルム◎幻燈畫
◎輕便活動寫眞器◎カーバイト
▲其他日鮮人向實用品販賣
▲東京鶴淵幻燈舖京城代理店
新築中の處落成致十一月十五日より開店仕候に付御用命の程奉願上候
京城黃金町三番地
金原商會販賣部
電話一四三四番
振替口座京城七四九番

各種上等石炭
△日本產石炭名▽
金線炭 唐津炭 江州炭
△平壤產無煙炭名▽
卵形炭 平壤無煙炭
煉瓦炭
無煙粉炭
石炭直輸入商
西崎商店
京城西小門通四十七番
電話七二七番

開店
◎食料品雜貨
◎新炭和洋罐詰
高橋兄弟商店
京城明治町二丁目南入
37

◎夜間診療は九時迄とす
◉肺結核及結核性疾患の最新注射は實費診療す
△六十六號注射藥
仁川病院
電話十六番

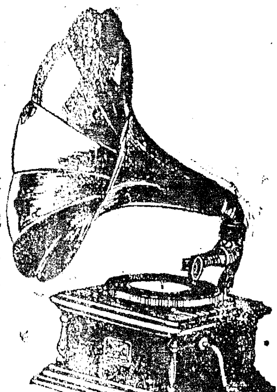
板硝子厚鏡
ペンキ材料一式
京城本町六丁目五九番戶
小田商店販賣部
電話四八六番

建築用ペンキ其他塗物一式
硝子切嵌 め同パテ詰め
京城本町六丁目六一番戶
同工業部
取次電話四八六番

牛馬犬猫治療所
京城明治町三丁目
小川家畜醫院
院長 小川鶴太郎
(電話四二七番)

算盤票洋蠟燭發賣
貳匁物 四匁物 五匁物 八匁物 六オンス 七オンス 八オンス 九オンス
仁川松阪町二丁目
朝鮮洋蠟燭製造場
電話(三一四)番
△△原料精撰製造精撰
仁川販賣店
河野木店 貞安商店 赤松商店 鬼頭商店 鈴木商店 玉植商店 南方商店
△京城其他要所には特約販賣店あり

日本蓄音器商會
朝鮮總代理店
歐米雜貨 洋酒食料品 洋煙草類 直輸入商
京城本町
辻屋
電話二四八番
振替口座八七番

日本音譜 朝鮮音譜
各種品揃
音譜目錄無代進呈
地方の御注文は振替口座又は引換小包にて御送附可仕候

大聲發音器

開店滿五週年
弊店獨得の抽籤大賣出し
自十一月二十日 至同月二十八日 九日間
五週年間特別なる御引立の御報恩として右期間內は現金に限り左記品物何品に拘らず抽籤にて大割引致ます
綿類、夜具地類、吳服類全部
特等メリヤス類、上等厚司類
商品切手發賣仕候
見切反物釣切山程取揃居候(但此分に限割引不致候)
京城明治町一丁目(電話二六一番)
唐川吳服店

齒科診療
京城本町二丁目三越吳服店前
野田齒科醫院
仁川仲町三丁目末永吳服店隣
野田齒科醫院分院

最上醬油
高
釀造元
仁川港萬石町
高杉醬油釀造場
電話七六五番

瑞西タバン懷中時計會社朝鮮代理販賣店
△米國ウオルサム懷中時計朝鮮特約販賣店
△米國アンソニヤ掛置時計朝鮮特約販賣店
日本掛置時計明治時計會社朝鮮代理店販賣店
△各種貴金屬類御小賣店
▲各種蓄音器卸小賣取次店
京城南大門通三丁目(電話一〇一五番)
各官衙諸會社御用達 時計卸小賣商
喜多金光堂本店
仁川本町三丁目(電話七〇五番)
時計商
喜多金光堂支店

文房具 和洋紙 測量器械
日本政府檢定濟 度量衡器特許輸入販賣所
シノサキ本店
京城本町一丁目(郵便局前)
電話長七百五番
電話長六四八番
振替口座朝鮮一五四番

一子相傳
說明書に依り說明の要點を堅く守りて服藥せば婦人病者又は永年子なき人も
必ず子供の出來る
靈藥 帶孕散
子なき婦人は速に試よ効驗直に現る
不思議藥

申込次第說明書無料送呈
東京本所鶴澤町一丁目
堀越頌藥部

●●●各鏡火鉢台●●●帳簞笥 ●●●テーブル●●●椅子差 ●●●机鐵膳金庫戶棚
新荷着
家具、漆器、唐木製品、其他日用世帶道具一式、諸金物類、柳行李、諸荒物類
弊店は總て內地製造工場と直接特約致居候へば非常なる廉價にて小賣も卸直を以て御需に應可申候間多少共御試買之程願上候
仁川港新町一丁目(西北角)
ツ 津田兄弟屋
電話七六九番
振替口座京城三八二番

●新荷着
酒精アルコール
仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ)
坂倉支店

淺田飴
肺病より起るせき 咽喉をいためし 聲を發せしむ 病後のよわり 貧血性諸症
本舖 東京大阪 堀內
良藥口に甘し
代理店
京城南大門通三丁目
新井藥房
電話九百四番千六十八番
振替口座京城十六番

健胃下腹丸
代理店
京城南大門通三丁目
新井藥房
電話九百四番千六十八番
振替口座京城十六番

弦齋流割烹
すゞ祢
南山町一丁目
電千五百二番

キ
十一月中瀛船出帆廣告
成歡丸 濟州島行 十一月日前九時
天草丸 海州行 十一月日前時
三省丸 屯串行 十一月日前時
安來丸 海州行 十一月日前二時
三省丸 芝行 十一月十九日前七時
仁川本町 大湖丁目 電話一七三・七一〇
合資會社 秋田商會船舶部